

1 令和4年度(2022年)3月市議会における議員からの要望等について(報告)

【報告】 企画経営部

【質疑等】 なし

2 今後の市立病院のあり方の方向性について

【提案】 企画経営部

【結果】 承認

【質疑等】

- ・ クリーンセンターの建替え時と同様に、候補地選定できる時期がいつなのかということに、多くの人の関心が集まる。そのことを踏まえ、本資料の内容を確認すると不安な点がある。敷地調査が予定されている令和4年12月は間近であり、敷地調査を行うと同時に、基本構想と基本計画に着手すると本資料を見る限りは読み取れるが、基本計画とは一般的に場所が決まってから行う作業であり、場所が決まっていない状態で、基本計画に着手していくことが果たしてできるのか疑問に思う。この不安を解消するため、どの段階で候補地を選定し、どの段階で場所を決めて、どの段階で実際の計画、設計に入っていく予定なのか答えられるようにしておくべきであると考えている。
  - ⇒ 本資料の「おわりに」に記載のとおり、基礎調査に基づく、基本構想、基本計画としており、まずは敷地調査の結果が出ないと次のステップに進めないと考えている。
- ・ 令和4年12月に基本計画を着手する訳ではないということか。
  - ⇒ 基礎調査、基本構想、基本計画を一本で委託した方が良いと考えており、委託の仕方をどのようにするかにもかかっている。基礎調査を事前に実施し、基本構想、経営強化プラン、基本計画と段階的に進めていく予定だが、それを一本で書いてしまっているので、そういう見え方になっていると思うが、本資料にも先に基礎調査を行うといった書き方にしている。
- ・ 病院経営においては、医師の資質等に左右される側面がある。救急のERが一生懸命頑張っても、その後の後送の各診療科の対応も重要であり、病院の中で患者が循環しないと滞って、救急医療が廃れていく。病院内の循環が大切であり、そのための司令塔となる医師も必要と感じており、更に気に留めていただきたいと思う。高度急性期の医療単価は高額だが、スタッフを沢山必要とするため、それに係る人件費も高額となり、価格のバランスが難しい。かといって、回復期や慢性期は、非常に医療単価が低くなっている。今後2040年問題を見据え、超高齢化になった時には、地域包括が重要になる。病院内だけの体制づくりでなく、地域の見守りとの連携が重要であり、バランスは難しいが進めていってほしい。公立の病院が市内にあることは、救急の立場や市民にとっても安心感を提供できるため、引き続き頑張ってほしい。ただ、医療や

医師の確保が課題であり、医師側から見ても魅力ある病院であることが必要。是非、そういう状況下において、大学連携も含めて研修や教育機会も充実させてほしい。

⇒ 4月から一気に救急車の受入体制が増えている。これを継続していくため、兵庫医科大学と密に連携して、救急ERドクターを派遣してもらう等の対応をしていきたいと思う。今回の国から示された考え方として、以前は再編統合で急性期の病床を減らしていくことを掲げていた。しかし、なかなか進まず、再編統合から機能分化・連携強化へ方針を変更している。市内では当院が中核的医療を行う基幹病院になり、その他の病院には慢性的な急性期を担ってもらうことで機能分化を進め、当院は継続していくことを考えている。

- 今回の方針は、主要な事項が大きく分けて2点ある。1点目が経営形態を現状のままで継続していくこと。もう1点が建替えに向けての検討を進めること。これに対しては、財源確保が大きな課題となっている。その中で、建替えに必要な財源確保に向けて、病院においては、持続可能な経営基盤の強化を着実に実行していく。市においては、行財政経営基盤の強化に向けた取組を推進していくことが書かれている。令和4年3月に策定した財政見通しでは、病院の建替え費用を含まず、今後10年間で82億円が不足すると想定している。行財政経営基盤強化の取組を行った場合のシミュレーションでは、令和5年度予算で7億円、令和6年度予算で8億円の経常的な収支改善を行った場合、10年後で45億円のプラスが出るシミュレーションをしている。45億円のプラスが出るが、市立病院の建替え等を行った場合は、その45億円は無くなる。つまり、7億円、8億円を目安額とする収支改善をしないと病院の建替え対応はできない想定となっているため、現在進めている行財政経営基盤強化の取組を推進していく必要があることを改めて認識してほしい。財源面では、病院の建替えは長期の起債償還等が発生することが想定されるため、可能な限り市の負担も平準化をしていきたいと考えている。また、建替えの方向性が決まれば早めに資金を蓄えていく必要があるため、申し上げた。
- 建替え時には、どうしても資金の議論が出てくる。資金の検討がそこまで進んでいない状況で、時期の決定等は、慎重にしないといけないと考えているが。

⇒ 新病院開院後の収支シミュレーションでは令和12年4月に開院することを前提にシミュレーションしていることから、それを前提としたスケジュールを「参考」として記載しているが、表現の変更について検討する。